

大分教育事務所訪問②-1 (計74)

由布市立西庄内小学校に学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「平和とふるさとを愛し 主体的に学びたくましく生きる子どもの育成」を達成するために、目指す子ども像を「知識・技能を活用する子ども」「豊かに表現する子ども」「挑戦する子ども」と資質・能力の3本柱を意識して定めています。実践は、授業改善推進チームと主体的な学習者育成チームを中心に行われ、2学期の達成指標や取組指標は、1学期の学校評価から、より焦点化した内容を集中的に行っています。

注目すべきは、3つあった「学校として育成を目指す(教科横断的な)資質・能力」を「伝え合う力」と焦点化することで、全ての活動において意識するようにしたことです。これにより、教職員だけでなく、保護者や地域の方にも、子どもにどんな力をつけるべきかという「目的」に対する共通理解が深まり、手段(取組)についてはそれぞれの担当者に任せることができ、より当事者意識が高まることでしょう。そして、何よりも子ども達自身が「伝え合う力」を意識するようになれば、自分の目標として行動することになると思いました。

授業から学ぶ

3年生国語は、学力調査で課題のあった「修飾語」について提案授業を行ったそうです。このように、学校の課題にチャレンジすることは素晴らしいと思いました。授業では質問をした児童の内容も良かったですが、隣にいた子どもがその挙手をした姿を先生に伝えたことに感動しました。正に伝える力ですね！4年生は学び合いが効果的に行われており、6年生は発言した子どもに対して他の子どもたちが直ぐに反応していた点が良かったです。

今後は、子ども達が活動している時の教師の立ち位置(俯瞰的)や、支援や評価の在り方はどうあるべきかを検討してみたいかがでしようか。また、授業の「振り返り」には、子どもがどのような事を書くのか、どんな姿になったら良いのか等、教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもを主語」として記入してみたいかがでしようか。そのことで、「ねらい」との連動や評価規準、C層への支援・手だてがより明確になり授業力がより向上すると思いました。



挑戦する子

「よし！発表しよう！」
友達と一緒に悩み、全員が納得するまで考えたから、挑戦できる。



考える子

板書を見る。教科書やノートを見る。根拠をもつことで自分の考えが深くなる。



瞬間挙手

授業の流れを知っているから、先生の発問が予想できる。受け身でないから授業は楽しい。



道具だから

考えてもわからないことはすぐに調べる。そして、自分の言葉でまとめ、みんなと共有する。タブレットは道具だから。



伝え合う

真剣に聴いてくれて、私の思いを引き出してくれる友達がいるから、伝え合える。